

児童が主体的に学習に取り組む道徳の授業の展開

— 道徳的な問題を追求させるためのワークシートの活用を通して —

北広島町立新庄小学校 武本 圭子

研究の要約

本研究は、児童が主体的に学習に取り組む道徳の授業の展開について、道徳的な問題を追求させるためのワークシートの活用の有効性を考察したものである。文献研究などから、児童が主体的に学習に取り組むためには、児童に問題意識をもたせ、それを追求させる授業展開と書く活動を取り入れることが有効であることが分かった。そこで、「道徳的な問題を追求する授業」を「①問題の意識化」「②学習問題の明確化」「③問題の追求」「④問題に対する自己の納得」「⑤まとめと発展」という5段階で展開し、児童に道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用した。その結果、児童は道徳的価値について自分との関わりで考え、主体的に学習に取り組むことができた。このことから、「道徳的な問題を追求する授業」を展開し、そのためのワークシートを活用することは、児童が主体的に学習に取り組む道徳の授業の展開において有効であるといえる。

キーワード：主体的に学習に取り組む 問題を追求する ワークシート 自分との関わり

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編(平成27年、以下「解説(特別の教科)」とする。)においては、「人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものと言える。」¹⁾と示されている。また「道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。」²⁾として、児童自らが主体的に学ぶための教師の創意工夫が求められると示されている。一方で、これまでの道徳教育においては、読み物の登場人物の心情理解に偏った形式的な指導が行われる例などの課題があることも示されている。これらのことから、道徳の時間において、児童が主体的に学習に取り組むことができるように指導の工夫を行うことは、今後ますます求められるといえる。

永田繁雄(2015a)は、道徳の時間において主体的に学習に取り組むことについて、道徳的な問題に対して、問題意識をもち、自分ごととして臨むことであると表現している。その上で子供が捉えた問題を追求できる学習の場を作り出すことが求められていると述べている。

平成26年度の所属校第2学年の道徳の授業記録を分析すると、児童が自分ごととして問題意識をもち、その後の展開においてそれを追求したといえる授業は約1割であった。また、児童の振り返りの記述内容から、自分ごととして考えを深めていると考えられるものは、全体の約4割であった。これらのことから、所属校においては、児童が主体的に学習に取り組む道徳の授業になりえていなかったといえる。

「解説(特別の教科)」において、道徳科に生かす言語活動の工夫として、児童が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合うことができるように、書く活動などの表現活動を工夫することを挙げている。赤堀博行(2013)は、書く活動を活用する意義について、自分の考え方を客観的に認識できることや自分との関わりで主体的にねらいとする道徳的価値について考えることができることなどを挙げている。これらのことから、道徳の時間において、児童が主体的に学習に取り組むためには、書く活動を取り入れることが有効であるといえる。

そこで、本研究では、道徳の時間において、児童に問題意識をもたせ、それを追求させる授業を展開するとともに、そのためのワークシートを活用し、児童に自分との関わりで考えさせることで、児童が主体的に学習に取り組むことができると考え、本研究題目を設定した。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 児童が主体的に学習に取り組む道德の授業

(1) 児童が主体的に学習に取り組む道德の授業とは

「解説（特別の教科）」においては、道德科における主体的な学習について、児童が道德的価値を自分との関わりで捉え、自らの将来に進んで生かそうとする姿勢をもてるような学習と示されている。また、道德的価値を自分との関わりで捉えることについて、道德的価値を自分のこととして感じたり考えたりすることと示されている。このことについて赤堀（2013）は、これまでの経験やそのときの感じ方と照らし合わせながら考えられるようにすることが重要になると述べている。

これらのことから、児童が主体的に学習に取り組む道德の授業とは、児童が問題意識をもち、経験を想起しながら道德的価値を自分との関わりで捉え、自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができる授業であるといえる。

(2) 児童が主体的に学習に取り組むための指導の工夫

道德の時間において、児童が主体的に学習に取り組むために、赤堀（平成26年）は、児童が自分との関わりで道德的価値について考えようとする意欲を高める必要があると述べている。そこで、児童がねらいとする道德的価値について、自分との関わりで考え、主体的に学習に取り組むことができるように、次の2点において指導の工夫を行う。

ア 道德的な問題を追求する授業の展開

「解説（特別の教科）」においては、児童が道德的価値を自分との関わりで考えることができるように、問題解決的な学習を導入することが求められると示されている。永田（2015 a）は、問題解決的な学習について、一人一人が相互の学び合いの中で自己の中の解決を追求する解決的な営みが中心となるとした上で、「言い換えれば道德的な『問題』の追求の過程である。」³⁾と述べている。これらのことから、道德的な問題を追求する授業を展開することによって、児童は道德的価値を自分との関わりで考えることができ、主体的に学習に取り組むことができると考える。

永田（2015 a）は道德授業の中心は「問題意識」をもった「問題追求」であるとして、子供が自己の「納得」と「答え」を得ることを主眼とした学習観

が重要になると述べている。その上で、道德授業における問題追求のおよその流れを図1のように4段階で示し、問題を追求する授業においては、一人一人の中にかけがえのない生き方観や価値観が醸成されていくと述べている。

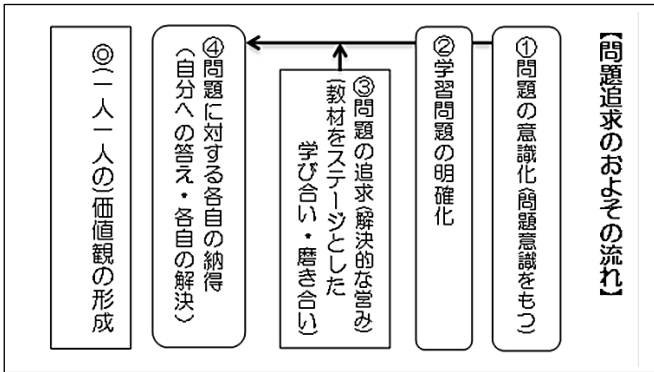


図1 「問題追求のおよその流れ」⁴⁾

「解説（特別の教科）」においては、道德の授業では、理解した道德的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したりこれからの課題や目標を見つけたりすることが望まれると示されている。そこで、本研究においては、図1の「問題追求のおよその流れ」を基に、児童が道德的価値に照らして自分を振り返り、今後の発展につなぐことができるよう、「⑤まとめと発展」を加え、5段階にした。この5段階を本研究における「問題追求の流れ」とし、これに沿って展開する授業を「道德的な問題を追求する授業」として表1に示す。

表1 本研究における「道德的な問題を追求する授業」の流れ⁽¹⁾

①問題の意識化	生活、教材との出会いなどの多様な角度から、児童に問題意識をもたせる発問を行い、問題の意識化を図る。
②学習問題の明確化	①においてもたせた問題意識を基に学習問題を設定し、明確に示す。
③問題の追求	中心的な発問によって学習問題を深く掘り下げ、自他の考えの比較を通して、道德的価値を自分との関わりで捉える。
④問題に対する自己の納得	自分の問題意識を基に設定された学習問題に対する自己の納得を得る。
⑤まとめと発展	道德的価値に照らして児童自身が自己を見つめ直し、今後の発展につなぐ。

なお、永田（2015 b）は、授業の入り口を柔軟に捉え、多様な角度からの問題意識とそれに基づくテーマを発想することが重要と述べている。このことから本研究の検証授業においても、図2に示すよ

うに多様な角度から問題意識をもたせ、学習問題へつなぐ学習指導過程の工夫を行っていく。

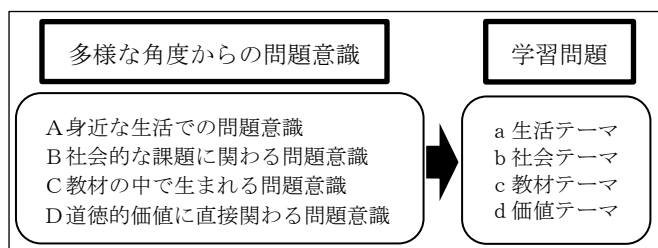


図2 学習問題につながる多様な角度からの問題意識⁽²⁾

イ ワークシートの活用

「解説（特別の教科）」においては、書くことによって、曖昧だった自分の考えが整理されたり、日ごろは意識していない体験や自分自身の状況を想起したりするとして、書く活動を取り入れることで児童は道徳的価値をより強く自分との関わりで捉えることができるようになることと示されている。そこで、本研究においては、「道徳的な問題を追求する授業」において活用するワークシートを作成し、それぞれの段階において書く活動を取り入れることで、道徳的価値について自分との関わりで考えさせていく。

2 道徳的な問題を追求させるワークシートの活用

(1) 道徳的な問題を追求させるためのワークシートとは

道徳的な問題を追求させるためのワークシートの構成を図3に示す。

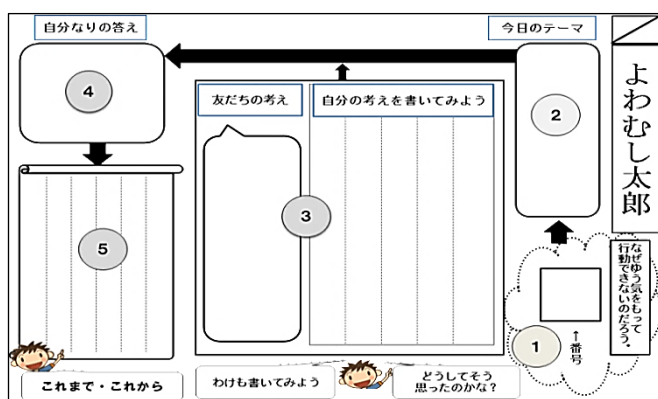


図3 道徳的な問題を追求させるためのワークシート

図内の①から⑤は、「問題追求の流れ」を示している。本ワークシートは、見開きで「問題追求の流れ」の全体を見渡し、振り返ることができるように構成している。児童の問題意識が各段階を経て「⑤

まとめと発展」へとつながる流れを矢印で表すことで、児童は学習に対して見通しをもつことができると考える。児童は、それぞれの段階において、「自分だったらどうか。」「これまでの自分はどうか。」「など自分との関わりで考えながらワークシートに書いて、道徳的な問題を追求していく。ワークシートの全体の書き込みが完成すると、児童は、自分の「問題追求の流れ」を遡って見返し、自分の考えの変容に気付くことができると考える。このように、本研究における道徳的な問題を追求させるためのワークシートとは、「問題追求の流れ」を構造的に示し、「問題追求の流れ」に沿って道徳的価値について自分との関わりで考えさせる工夫を行ったものである。児童はワークシートの活用によって、主体的に学習に取り組むことができると考える。

(2) 道徳的な問題を追求させるためのワークシートの活用について

ア 「①問題の意識化」の段階

「解説（特別の教科）」においては、児童が主体的に道徳性を養うための指導として、学習の始めに課題意識や課題追求の意欲をもたせ、学習の見通しをもたせることが大切であると示されている。また赤堀（2013）は書く活動の意義として、子供が自分の感じ方や考え方を客観的に認識できることを挙げている。そこで、この段階においては、発問に対して考えたことを書かせることで、児童自らの問題意識を明確に把握させる。このように、書くことによって自分の問題意識を客観的に認識させ、自らの問題意識から始まる学習に意欲と見通しをもたせるようにする。

イ 「②学習問題の明確化」の段階

「解説（特別の教科）」においては、道徳科の特質に応じた指導方法の工夫として、児童がどのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭になった学習を心掛けることが大切と示されている。そこで、この段階では、前段階で各自が意識化した問題意識を基に、本時の学習問題を設定する。例えば、児童に「なかよし」について現段階での認識を明らかにさせた場合、「本当の『なかよし』とはそれだけだろうか。」と問い、さらに深く考えたいという問題意識をもたせた上で「本当のなかよしとはどんな友だちかを考えてみよう。」という学習問題を設定する。そして、それを「今日のテーマ」としてワークシートの右上の欄に明確に書かせることで、主題が明瞭になった学習を展開していく。

ウ 「③問題の追求」の段階

この段階においては、前段階で設定した学習問題を意識させながら、教材を通して道徳的価値について深く考えさせていく。例えば、「本当のなかよしとはどんな友だちかを考えてみよう。」という学習問題であれば、それを意識しながら登場人物の言動や気持ちなどを考えていくことになる。

赤堀（2013）は、児童が自分との関わりで道徳的価値を捉える学習において、自分の感じ方、考え方を表明したり、他の感じ方や考え方と比較したりすることが有効であるとしている。また、文章化することで自分の感じ方や考え方が明確になり、他の児童が文章化したものとの比較、検討が容易になると述べている。そこで、この段階においては、ワークシートの中心の欄に自分の考えを書いた後、話し合いを通して心に残った友だちの考えも書けるようにする。こうして自他の考えを比較させることで自分との関わりで考えさせていく。

エ 「④問題に対する自己の納得」の段階

「解説（特別の教科）」においては、道徳科において、問題解決的な学習を取り入れた場合には、児童一人一人が課題に対する答えを導き出すことが大切であるとして、時間を確保してじっくりと自己を見つめて書くことが有効であると示されている。そこで、この段階においては、設定した学習問題について「③問題の追求」の段階を経て深めてきた考えを言葉で表現させることで自分の考えを整理させ、

学習問題に対する自分なりの考えをまとめていく。

オ 「⑤まとめと発展」の段階

「解説（特別の教科）」においては、学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫することなどが必要と示されている。そこで、最後の欄においては、「これまで・これから」という言葉を添え、自らを見つめ直し、今後に向けた課題について考えることができるようにする。また、ワークシートの記述を見返すことで、学んだ道徳的価値を振り返り、自らの将来に生かしていこうとする姿勢をもたせる。

図4は、「問題追求の流れ」とワークシートの活用に関連を示す研究構想図である。問題を追求する授業の流れに沿って、各段階におけるワークシートの活用目的を示している。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

道徳の時間において、「道徳的な問題を追求する授業」を展開し、道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用すれば、児童は道徳的価値について自分との関わりで考えることができ、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表2に示す。

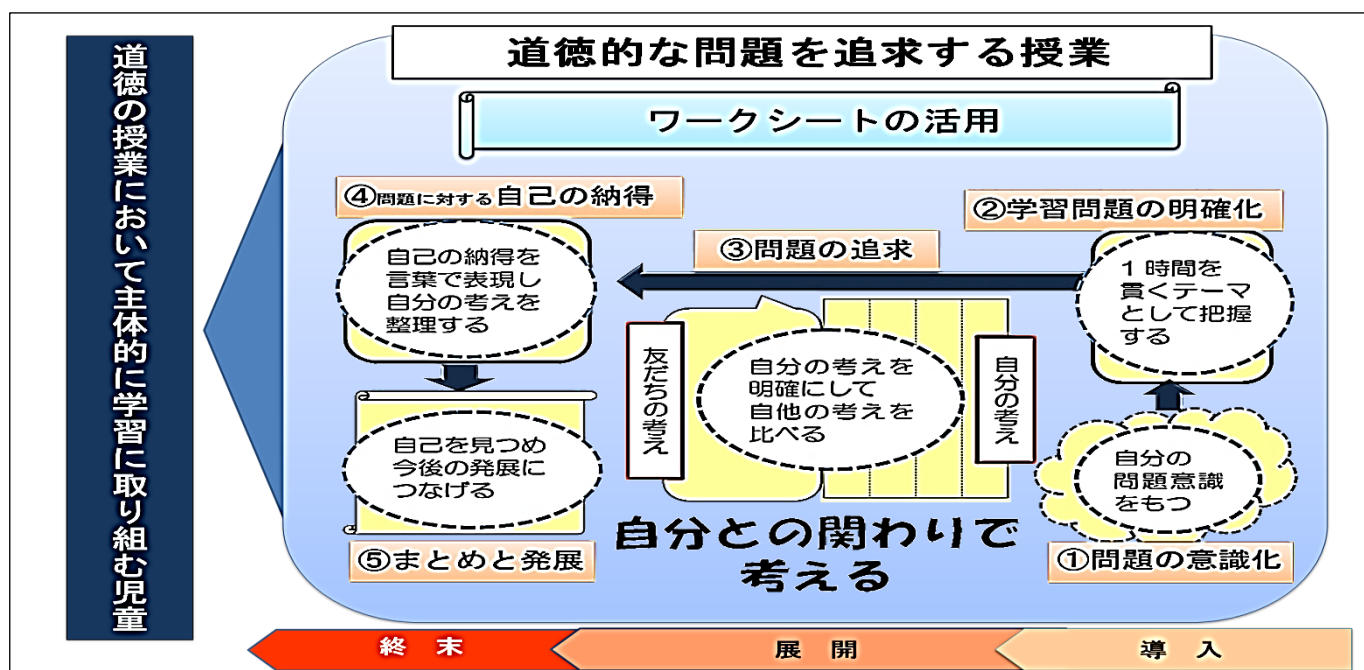


図4 「問題追求の流れ」とワークシートの活用に関連を示す研究構想図

表2 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法	
道徳の時間において、道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用することは、児童が主体的に学習に取り組むことに有効であったか	①児童は、問題意識をもつことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述の分析 ・事前・事後アンケートの分析・考察 ・児童観察
	②児童は、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたか	
	③児童は、道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができたか	

3 検証のためのアンケート

本研究では、児童が主体的に学習に取り組むことができたかを検証するために、検証授業の事前、事後において、「道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたか。」などについて自己評価するアンケートを実施する。事前アンケートについては、これまでの授業を振り返っての自己評価とする。

IV 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 平成27年6月23日～平成27年7月7日
- 対 象 所属校第3学年（1学級14人）

2 研究授業の概要

本研究で行った授業の概要を次頁表4に示す。なお、問題意識をもたせる角度と設定された学習問題のテーマについても表中に明示する。

V 研究授業の分析と考察

1 道徳の時間において、道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用することは、児童が主体的に学習に取り組むことに有効であったか

(1) 児童は授業において、問題意識をもつことができたか

「①問題の意識化」の段階において児童に問題意識をもたせる発問を行った。本研究においては、発問に対して、自分を振り返り自らの考えをワークシートに書くことができた児童を「問題意識をもつことができた。」と評価した。

検証授業1において問題意識がもてなかった児童が1名いた。（以下「児童A」とする。）検証授業1では、「なかよしだから（ ）。」の括弧

に入る言葉を考えることで、学習前の道徳的価値の理解を明らかにしようと考えたが、児童Aは言葉を入れることができなかった。自分の思いを定型文にまとめることが難しかったのではないかと考えた。そこで、検証授業2では、主人公と自分が似ているか似ていないかについてワークシートに丸印をつけさせ、理由をその下に書かせた。児童Aは、「似ていない。」を選んでいたため、その理由を尋ねると、「ぼくは清作みたいに頑張らない。」と答え、それをワークシートに書いた。検証授業3では、選択肢で答えられるように発問の工夫を行い、ワークシートにも番号を書けるようにしたところ、選択肢から自分の考えに近いものを選んで書いた。児童Aは、書くことによって自分を振り返って考え、問題意識をもつことができたといえる。

次に、検証授業2の「①問題の意識化」の段階における児童の記述を表3に示す。児童が主人公と自分を「似ているか、似ていないか。」という視点で比べ、その理由を書くことで現在の自分の考え方が明確になったといえる。検証授業3でも選択肢から全員が自分の考えを選ぶことができた。

これらのことから、「①問題の意識化」の段階において、個別の支援をするとともに、選択肢を示すなどのワークシートの改善を行ったことで、児童は問題意識をもつことができたといえる。

表3 検証授業2の「①問題の意識化」の段階における児童の記述

【発問】資料を読んで、清作と自分が似ているか似ていないかを考えよう。	
	理由(人)
にている (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめずに最後までやる。(6) ・自分もたまにいやなことを言われる。(2)
にいてない (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・清作のような経験がない。(2) ・自分はがんばらずにあきらめてしまう。(3) ・清作はいやなことがあってもがんばって学校に行くから。(1)

(2) 児童は、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたか

ア 事前・事後アンケートの結果から

道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたかについての意識調査の結果を図5に示す。「道徳の時間に今までの自分がどうだったか」とい出しながら自分のことについて考えていたか。」という設問に対して、肯定的な回答をした児童は4名増加し、ほとんどの児童が道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたことが分かる。

表4 道徳の時間の概要

	検証授業1（6月23日）	検証授業2（6月30日）	検証授業3（7月7日）
主題名 内容項目	互いに理解し合って 2－（3）	自分の弱さに負けない心 1－（2）	正しいと思ったことは勇気をもって 1－（3）
ねらい	実の言葉の意味がだんだん分かってきた「ぼく」の気持ちを考えることを通して、友だちと互いに理解し合おうとする心情を育てる。	母にきっぱりと「どんなことにもまけない。」と言ったときの清作の気持ちを考えることを通して、自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。	太郎が勇気をもって行動できた理由を考えることを通して、正しいと思ったことは勇気をもって行おうとする態度を養う。
資料名 【出典】	なかよしだから 【「どうとく3明るい心で」東京書籍】	まけるものか～野口英世 【「どうとく3明るい心で」東京書籍】	よむむし太郎 【「わたしたちの道徳 小学校三・四年」文部科学省】
主な学習の流れ（◎中心的な発展）	①問題の意識化	・自分なら、「なかよしだから（ ）。」という文の括弧の中にどんな言葉を入れるか。 《D道徳的価値に直接関わる問題意識》	・正しいと分かっているのに勇気をもって行動できないのはどうしてだろう。 《A身近な生活での問題意識》
	②学習問題の明確化	【学習問題】 本当のなかよしってどんな友だちだろう。 [d 価値テーマ]	【学習問題】 勇気をもって行動するために大切なことは何か。 [a 生活テーマ]
	③問題の追求	○答え合わせのノートを見ているうちに、ぼくは何が分かってきたのだろう。 ◎自分が「ぼく」だったら、次の日、実くんは何と言ってみたいか。	○太郎は何と何の間で心の綱引きをしているのだろうか。 ◎太郎はどうして殿様の前から動かなかったのだろう。
	④問題に対する自己の納得	・本当のなかよしとはどんな友だちだと思うか。	・勇気をもって行動するために大切にしたいことは何か。
	⑤まとめと発展	・今日の学習の振り返りを書こう。	・これまでのことやこれからのことを考えて振り返りを書こう。

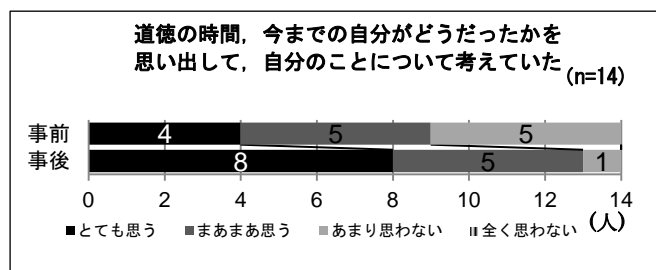


図5 道徳的価値を自分との関わりで捉えることができた児童

イ 児童のワークシートの記述から

「⑤まとめと発展」の段階のワークシートの記述を中心に、児童が道徳的価値を自分との関わりで捉えることができたかを検証した。ワークシートの記述内容の分類と段階を表5に示す。A段階の児童を自分との関わりで捉えることができたと評価した。検証授業1においてA段階であると評価した児童の割合は28.5%（4人）であったが、検証授業2, 3では

85.7%（12人）と、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができた児童が増加した。

表5 ワークシートの記述内容の分類と段階⁽³⁾

段階	記述内容の分類	児童の記述（一部）
A	道徳的価値を理解し、これまでの自分についての記述がある。	・これまでは、わる口を言われそうだなと思って言えないことがあったけど、これからはどんなにきずつく言葉を言われても、ゆう気をもって言おうと思いました。
B	道徳的価値を理解し、これからの自分についての記述があるが、これまでの自分についての記述がない。	・これからは友だちと仲よくして、助け合っていこうと思った。 ・今日から清作みたいに強くなって、なんでもがんばろう。
C	道徳的価値の理解はできているが、自分自身の事として捉えていない。	・友だちを大切にしなければいけないと分かった。
	道徳的価値の理解が十分ではない。	・（教材のあらすじを書いて）自分は、あやまれればいいと思った。

検証授業1において、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができた児童が少なかった理由は「⑤まとめと発展」の段階において、学んだ道徳的価値に照らして自己を見つめ直して経験を想起させることが十分できていなかったことだと考えた。そこで検証授業2からは、この段階においてワークシートに書く前に自己を見つめるように指導し、自分を振り返って書かせた。その結果、自分との関わりで捉えることができた児童が増加したと考える。

検証授業2「まけるものか」のワークシートの記述から、道徳的価値を自分との関わりで捉えていると見取ることができた児童の記述を示す。

○これまでの自分は（清作みたいに）「まけたくない」という気持ちがありませんでしたので、これからは、強い心を持ちたい。
○これまで、はぶてていやになってしまったことがありました。そのときはあきらめてしまったのでこれからは「まけるものか。」とやりきろうと思いました。

検証授業2における児童の記述（一部）

児童は、自らの心の中に清作のような反骨心がなかったことに気付いたり、あきらめてしまった経験などを具体的に想起したりしている。

これらのことから、道徳的価値に照らして自己を見つめるように指導し自分を振り返ってまとめを書かせたことで、児童は、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができるようになったといえる。

(3) 児童は道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができたか

ア 事前・事後アンケートの結果から

児童が道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができたかについての意識調査の結果を図6に示す。

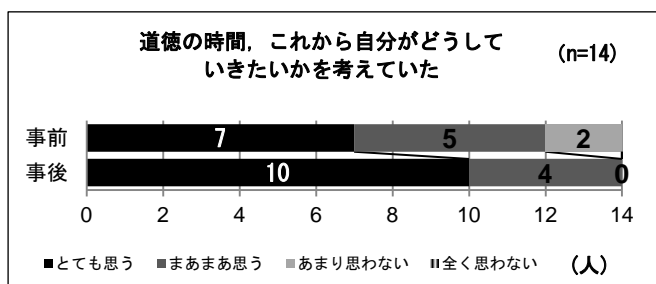


図6 道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができた児童

事後アンケートにおいては、「道徳の時間に、これから自分がどうしていきたいかを考えていたか。」という設問に対し、全員が肯定的な回答を示し、「と

ても思う。」と回答した児童も3人増加した。検証授業2から「⑤まとめと発展」の段階において、今後の発展について考えて書くという視点をもたせたことで、道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができた児童が増えたと考える。

イ 児童観察から

同設問において「あまり思わない。」から「とても思う。」に変容した児童（以下「児童B」とする。）の「⑤まとめと発展」の段階における記述を示す。

(検証授業1) これまでのぼくだったら教えてあげていた。実くんはすごいな。
(検証授業2) これまで、「まけるものか」とやっていなかったけど、今日勉強して、どんなかべにあたっても自分のげんかいをのりこえて、そのかべをのりこえようと思いました。
(検証授業3) これまでも、ぼくは、ゆう気をもって行動していたけど、道徳の勉強をして、(これからは)みんなのことなどをバランスよく考えて、自分なりの答えを出します。

児童Bの記述（一部）

検証授業1のワークシートには、児童Bが道徳的価値を自らの将来に生かそうとする記述はないが、検証授業2、3における文章からその姿勢を見取ることができる。検証授業2における記述はやや抽象的であるが、検証授業3においては、具体的な課題を見付けている。児童Bは、学習問題「勇気をもって行動するために大切なことは何か。」に対する自己の納得において、「自分のことだけでなく、他の人のことも考えて、自分で考えて出した答えを、勇気をもって行動する。」と書いている。勇気を出して行動するためには、自分のことも周りのこともよく考え、自分なりの決定を行うことが大切だということに気付いたといえる。そして、「⑤まとめと発展」において、これまでの自分も勇気をもって行動していたと思っていたが、これからは、もっと多面的に考えて自分なりの答えを出していこうという具体的な課題に気付くことができたと考えられる。「問題追求の流れ」においてワークシートに自分の考えを書くことで、具体的な課題をもつことができたという実感が、児童Bの自己評価の肯定的な変容につながったと考える。

これらのことから、児童は道徳的価値を自らの将来に生かそうとする姿勢をもつことができたといえる。

(4) ワークシートに対する児童の受け止め

最後に、ワークシートに対する児童の受け止めについて述べる。「道徳の時間にワークシートを書く

ことは自分が考えるために役に立つか。」という設問に対して、図7のように全員が肯定的な回答をしている。

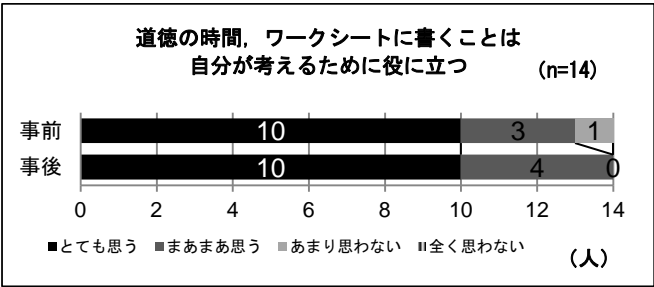


図7 ワークシートの有用性を感じていた児童

次に、ワークシートに自分の考えを書くことについての受け止めを、児童アンケートの記述から抜き出して表6にまとめる。

表6 書くことについての児童の記述(一部)

児童の記述	児童の記述の要約
・自分の考えがよく分かる。 ・主人公の考えていることが分かる。	自分の考え方を客観的に認識。
・さいしよに思ったことを残しておく。 ・見返したら前の自分のことが分かる。	学習の振り返りが可能。
・いろいろな考えが思いうかぶ。 ・自分なりの答えが出る。 ・発表だけではなく、書いてまとめることができる。 ・書くことで自分の言いたいことが言える。 ・ワークシートに書くと自分の気持ちが大きくなる。	曖昧だった自分の考えを整理。
・時間がとれる。 ・自分の気持ちを正直に伝えられる。 ・発表するのははずかしいんだけど、紙に書いたら、自分の考えがよく書ける。	自分なりの取り組み方による思考。
・友だちの考えを聞いて書いたりして書きやすいし、気持ちが発表しやすい。 ・友だちの考えや自分なりの答えが書ける。	自他の考えの比較。
・このワークシートの方が書きやすい。	ワークシートの書きやすさ。

下線を付けた記述は事前のアンケートにはなかった内容であるが、学習を振り返ることができる点や自分なりの答えが明確になる点、本ワークシートが書きやすい点などに触れていることから、本ワークシートの活用について児童が肯定的に受け止めているということが分かる。

以上の結果から、道徳の時間において、道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用することは、児童が主体的に学習に取り組むことに有効であったといえる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

道徳の時間において、「道徳的な問題を追求する授業」を展開し、道徳的な問題を追求させるためのワークシートを活用すれば、児童は道徳的価値について自分との関わりで考えることができ、主体的に学習に取り組むことができることが分かった。

2 今後の課題

- 道徳的価値の理解が十分でないために、道徳的価値を自分との関わりで捉えられなかった児童がいた。「②学習問題の明確化」において道徳的価値の理解につながる学習問題を設定し、「④問題に対する自己の納得」においてワークシートに書いたことを他の児童と交流させることで、道徳的価値の理解がより深まるものとする。
- 児童がさらに主体的に学習に取り組むことができるように、本時のねらいなどに応じてワークシートを工夫、改善しながら継続して活用していくことが必要であるとする。

【注】

- (1) 永田繁雄 (2012) : 「学習テーマを置き中心発問につなげる」『道徳教育12月号』明治図書出版 pp. 73-75並びに永田繁雄(2015 a) : 「問題追求のスタイルを中核に据える」『道徳教育5月号』明治図書出版 p. 73を参考にして、稿者が作成した。
- (2) 永田繁雄 (2015 b) : 「問題意識とテーマを多様な角度から発想する」『道徳教育6月号』明治図書出版 pp. 71-73を参考にして、稿者が作成した。
- (3) 富岡栄 (2014) : 「中学校における道徳授業評価」『やってみよう新しい道徳授業』学研教育みらい p. 114を参考にして、稿者が作成した。

【引用文献】

- 1) 文部科学省 (平成27年) : 『小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』 p. 87
- 2) 文部科学省 (平成27年) : 前掲書 p. 75
- 3) 永田繁雄 (2015 a) : 前掲書 p. 72
- 4) 永田繁雄 (2015 a) : 前掲書 p. 73

【参考文献】

- 文部科学省 (平成27年) : 前掲書
- 赤堀博行 (2013) : 『道徳授業で大切なこと』東洋館出版社
- 赤堀博行 (平成26年) : 『初等教育資料4月号』東洋館出版社
- 永田繁雄 (2015 b) : 前掲書